

奈良県立医科大学

学報

NARA MEDICAL UNIVERSITY

vol. **66** 2018
November

Special Feature

理事長・学長からの
メッセージ vol.9

平成29年度
公立大学法人奈良県立医科大学決算



奈良県立医科大学
Nara Medical University

Contents

特集

理事長・学長からのメッセージvol.9	3
平成29年度公立大学法人奈良県立医科大学決算	5
平成29年度計画の業務実績に関する評価結果	6
西日本医科学学生総合体育大会が開催されました	8
看護学科オープンキャンパス2018を開催しました	9
MBT研究所だより	10
図書館だより	11
未来への飛躍基金だより	12

Campus News

チェンマイ大学研究者・看護師の受入研修を実施しました	13
同志社女子大学・奈良県立医科大学学術交流に関する包括協定に基づく講演会を開催しました	13
7月豪雨災害への医療救護班として医大チームが参加しました	13
第2回奈良臨床漢方医学セミナーを開催しました	14
奈良県防災総合訓練にMBT研究所が出展しました	14
ふれあい看護体験を実施しました	14
血栓止血医薬生物学共同研究講座のキックオフイベントを行いました	14
チェンマイ大学で研修を行いました	15
コンソーシアム実習(早大・奈良医大連携講座)を開催しました	15
アート展とフォーラムを開催しました	15
高大連携教育を推進しています	15
イノベーション・ジャパン2018～大学見本市&ビジネスマッチング～に出展しました	16
健康長寿大規模コホート研究助成事業進捗状況報告会を開催しました	16
平成31年度科学研究費助成事業に係る講演会及び応募申請説明会を開催しました	16
第1回医療IT EXPO 東京にMBT研究所が出展しました	17
第17回近畿・中部地区大学等知的財産連絡会議を開催しました	17
奈良県立医科大学健康フェア2018を開催しました	17
経済産業省江崎禎英氏にご講演いただきました	18
解剖慰霊祭を執り行いました	18
実験動物慰霊祭を執り行いました	18
学内保育園(なかよし保育園)を増築しました	19
第13回けいはんなビジネスメッセに出展しました	19

Winner Report

第30回日本内視鏡外科学会総会でePoster Awardを受賞しました	20
第27回泌尿器分子・細胞研究会で研究奨励賞を受賞しました	20
第54回日本腹部救急医学会・フィルムインタープリテーションで最優秀賞を受賞しました	20
第117回日本皮膚科学会総会で優秀演題賞を受賞しました	20
第12回ITヘルスケア学会学術大会で研究奨励賞を受賞しました	20
第23回日本緩和医療学会学術大会において優秀演題賞を受賞	21
第37回分子病理学研究会で優秀演題賞を受賞しました	21
第25回中島佐一学術研究奨励賞の授賞式を行いました	21
第7回奈良県立医科大学女性研究者学術研究奨励賞について	21
がん放射線療法看護の認定をいただきました	22
手術看護の認定をいただきました	22
皮膚・排泄ケアの認定をいただきました	22
認定看護管理者の認定をいただきました	22
横断的共同研究助成事業及び若手研究者研究助成事業を採択しました	23
Neoplasia 誌から『Highly Cited Article 2017 award』を受賞しました	23
第43回リザーバー研究会で優秀演題賞を受賞しました	23
第69回日本消化器画像診断研究会で優秀演題賞を受賞しました	24
第40回日本生物学的精神学会で若手研究者育成プログラム奨励賞を受賞しました	24
第40回日本生物学的精神医学会・第61回日本神経化学会大会合同年会で優秀発表賞を受賞しました	24
MBTリンク株式会社を奈良医大初の大学発ベンチャーに認定しました	24
リサーチ・クラークシップへの抱負	25

Information

一般財団法人 弘済会 奈良医大病院内	26
--------------------	----

寄附者ご芳名

「未来への飛躍基金」にご協力いただきありがとうございました	26
-------------------------------	----

Information

公開講座情報	27
平成31年度入試日程【医学部】	27
メディア掲載情報／編集後記	28

理事長・学長からのメッセージ vol.9

主たる大学か、従たる大学か – 奈良医大の20年後を決めるのは、今いる我々 –

はじめに

私は学報等において、この5年間の大学を取り巻く急速な変化を、危機感を持って皆様方にお知らせしてきました。ご存知の通り、大学の合併・併合を感じさせる経営統合のニュースが次々とメディアで報道されています。これは国が強力に、その後押しをしているからです。文部科学省が提唱した国・公・私立大学だけでなく、研究開発法人をも含んだ大学等連携推進法人（仮称）のイメージ図を示します。複数の大学が一つの法人の元に統合されると、必ず「主たる大学」と「従たる大学」ができます。

奈良医大が自分達の計画、判断で研究や臨床、教育を行える「主たる大学」として生き残るためには、国民や政府・文科省が「奈良医大は奈良の中部にある単なる医科大学」ではなく、「奈良に存在する、日本になくてはならない全国区の特別な医科大学」と認知するかどうかにかかっていると思います。

「主たる大学」への戦略

1. MBT 構想の展開

MBT 構想の全国展開をさらに加速しています。MBT 構想は、本学独自の他に類をみない産学連携構想です。そのことが認められ、すでに多くの業種から100社を超える一流企業が、本学のもとに集まっています（次頁MBT コンソーシアム会員

業種別リスト参照）。また総理官邸からも首相補佐官の見学があり、経産省等で、MBT 構想の講演や説明会を要請されることも多くなって参りました。

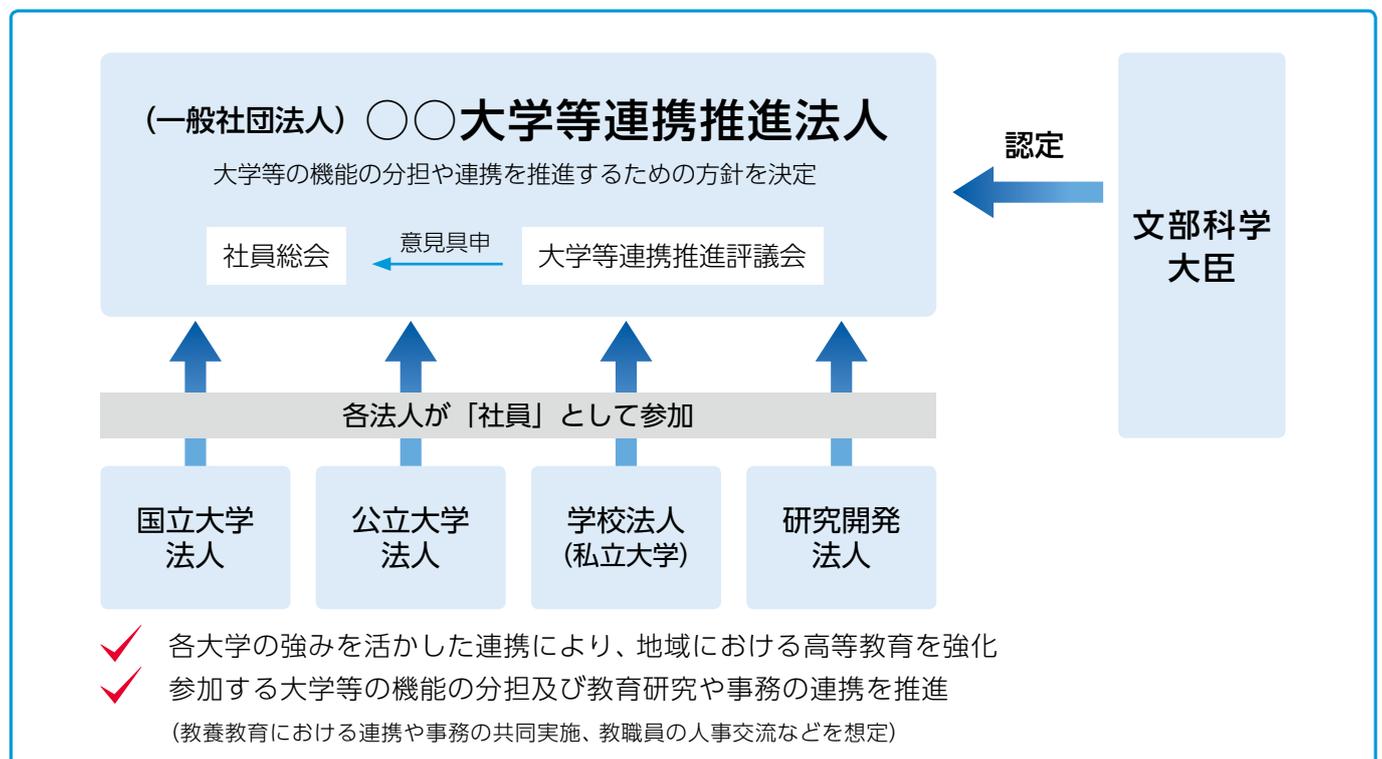
認知度も徐々に上がり、すでに本学教授を中心として、40名を超える教職員がMBTの企業マッチングに参加されています。企業と共同研究することは、本学関係者単独で行うよりも、研究におけるスピードやレベル向上に貢献するだけでなく、研究成果が製品となって日本のみならず世界の人々に使用され、人類により大きく貢献します。本席教授の例でもお分かりのように、近年のノーベル医学・生理学賞の傾向は、単に優秀な研究成果だけではなく、薬剤や治療方法に寄与する製品ができるかどうか大きな判断要因となっています。

医学的知見を物作りやまちづくりに生かすMBT 構想は、既に独自のデバイスも完成し、近い将来、まずは熱中症予防に必ず大きな成果を生み、さらに今後IoTや人工知能とのリンクが進めば、世界的にその価値が認められると手応えを感じています。新聞、テレビなど多くのメディアに取り上げられています。今後MBTの進展に従ってより一層紹介される機会が増えると思っています。

2. 教育機関としての責務と戦略

本学の存在感に関係する重要な事柄として、後期入試重視が挙げられます。「後期枠を減らして地域枠を増やす」という意見は、

大学等連携推進法人（仮称）イメージ



理事長・学長からのメッセージ vol.9

現在も学内外にあります。これについては、「医師の需給と奈良医大の存在感」の点を考慮する必要があると考えています。

i) 地域枠の変遷と対応

厚生労働省の推計によると、2024年(6年後)頃に医師の需要と供給が均衡に達し、その後は将来人口の減少により医師の需要は減少するとされています。これは医学部定員について、この現実を見据えた対応が必要であることを示しています。

地域枠制度は、2007年に旭川医大の吉田学長が奔走され、国立大学においても本制度が定着しました。その後の医師不足を考えると、先見の明があったと言われていました。10年以上経過した2017年に、策定した吉田学長が、今度は地域枠を縮小することを提言され、そして実行されました。医学部の入学定員の変更は、文科省に変更を届け出て、その2年後に実施されます。つまり、制度を変更した年の卒業生は、制度変更の決定をした年から8年後に、変更された定数の卒業生を輩出することになります。これを勘案しますと、世の中の動向を見据えた吉田学長の地域枠の定数変更の提言は、実に理にかなっていると考えられます。本学も将来を見据えた対応が必要であると考えています。

ii) 奈良医大の存在感

奈良医大にとってより重要な側面は、「全国区の存在感のある大学」に関することです。医療関係者をはじめ世間は、「偏差値が20位～30位の平凡な医科大学」と「偏差値が東大理三、京大医学部と並ぶ全国トップクラスの医科大学」のどちらに存在感

を感じるでしょうか。奈良医大の卒業生、そして日本全国、世界の医療関係者は、「橿原の平凡な地方医科大学」と「奈良にある全国トップクラスの医科大学」のどちらを評価するでしょうか。

iii) マッチング率好調

昨年、一昨年と奈良医大のマッチング率は100%で80大学病院中第1位でした。今年も95%（全国大学病院中第19位）マッチ数58（全国第10位）と好成績でした。より重要な奈良県に残ったかどうかを示す県別のマッチング率は94%で全都道府県中第4位でした。

数の上では、大都会の他大学に比べて決して引けを取らないレベルです。ただ20年後も奈良医大が「主たる大学」として全国にその存在感を示すためには、数だけではなく、トップレベルの医師を擁する医科大学である必要があります。そのためには、全国から優秀な人材を集め、しっかりと教育をする必要があります。そしてトップレベルの医師が集まることによって、結果として、奈良県民は、「全国トップレベルの医療を地元で受けることができる」という恩恵を受けることができるのです。

私は、「20年後も「主たる大学」として存在する奈良医大」を目指し、これからも誠心誠意頑張っていくつもりです。そして、将来の本学を支えていただく方々に、大きな希望が持てる形で本学を引き継いでいきたいと思っています。そのためにも、現在在籍されている教職員の方々と共に、その礎を築いていきたいと思っております。

MBT コンソーシアム会員業種別リスト

(2018・10現在：102会員)

業種別	MBT コンソーシアム会員	会員数
1. 農林・水産・鉱業		0
2. 建設	(株)イムラ、(株)インデックスコンサルティング、(株)奥村組、木村産業(株)、(株)きんでん奈良支店、(株)崎山組、積水ハウス(株)、大和ハウス工業(株)、大和リース(株)、松田電気工業(株)	10
3. 食品	江崎グリコ(株)、キリン(株)、三和澱粉工業(株)	3
4. 繊維・パルプ・紙	イムラ封筒(株)、(株)岡仲、(株)サンロード、(株)新生、東洋紡(株)、ミツフジ(株)、モード・ユニット工房(株)	7
5. 化学	JSR(株)、(株)資生堂、(株)テクノープル	3
6. 医薬品	(株)グランソール免疫研究所、佐藤薬品工業(株)、(株)ツムラ、日本ベーリンガーインゲルハイム(株)、ロート製薬(株)	5
7. 石油・ゴム・窯業		0
8. 鉄鋼・非鉄・金属	丸一鋼管(株)	1
9. 機械	(有)アベックス、(株)タカゾノテクノロジー、(株)タカトリ、KTX(株)、不二精機(株)、ユニオンツール(株)	6
10. 電気機器	(株)アズマ、応用電機(株)、シャープ(株)、富士通(株)、船井電機(株)、プロライト(株)、(株)村田製作所	7
11. 輸送機器	(株)本田技術研究所	1
12. 医療・精密機器	岩崎工業(株)、大研医器(株)、テルモ(株)、凸版印刷(株)、奈良精工(株)、(株)フィリップス・ジャパン	6
13. その他製造	昭和西川(株)、(株)プチファーマシスト	2
14. 商業	(株)イマナカ	1
15. 金融・保険	アフラック生命保険(株)、MS&ADインターリスク(株)、損保保険ジャパン日本興亜(株)、(株)南都銀行、日本生命保険(相)、(株)みずほ銀行、(株)三井住友銀行	7
16. 不動産	ジョーンズ ラング ラサール(株)	1
17. 運輸・倉庫	近鉄グループホールディングス(株)	1
18. 情報・通信	(株)iTest、NTTデータ経営研究所、近鉄ケーブルネットワーク(株)、KDDI(株)、(株)三技協、(株)産業経済新聞社、(株)テクリコ、日本無線(株)、(株)プロアシスト、まつのえ(株)、丸紅情報システムズ(株)、(株)三菱総合研究所	12
19. 電力・ガス	大阪ガス(株)、関西電力(株)、(株)関電エネルギーソリューション、大和ガス(株)	4
20. サービス	(株)エクスレイヤー、(株)楽研(株)、北関東総合警備保障(株)、(株)健康都市デザイン研究所、(一社)弘済会、小山(株)、(株)JVCケンウッド・ビクターエンタテインメント、(株)ドクターネット、日本ユニシス(株)、ニューロンネットワーク(株)、パシフィックコンサルタンツ(株)、ヴィタル・インフォメーション(株)、(株)ひばりラボ、ヘルスグリッド(株)、明豊ファシリティアークス(株)、メディケアリンク(株)、(株)ライフビジネスウエザー、ワタキューセイモア(株)	18
21. 公共・その他 (自治体、大学、病院等)	橿原市、東京急行電鉄(株)東急病院、奈良県、奈良県立医科大学、奈良友協会病院、西の京病院、日本タクティールタッチ協会	7

平成29年度 公立大学法人奈良県立医科大学決算

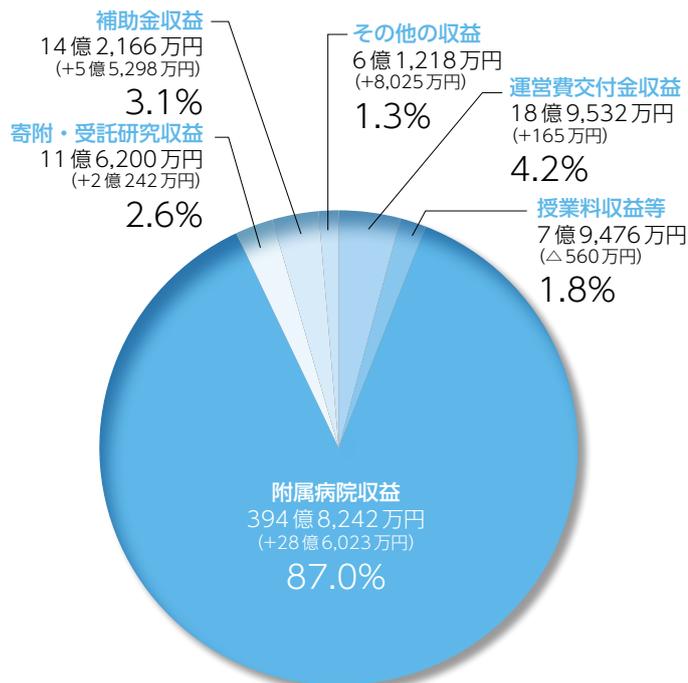
平成29年度決算 収益／453億6,834万円(+36億9,193万円) 費用／456億968万円(+27億6,217万円)

差引 2億4,134万円の赤字 (H28 11億7,110万円の赤字)

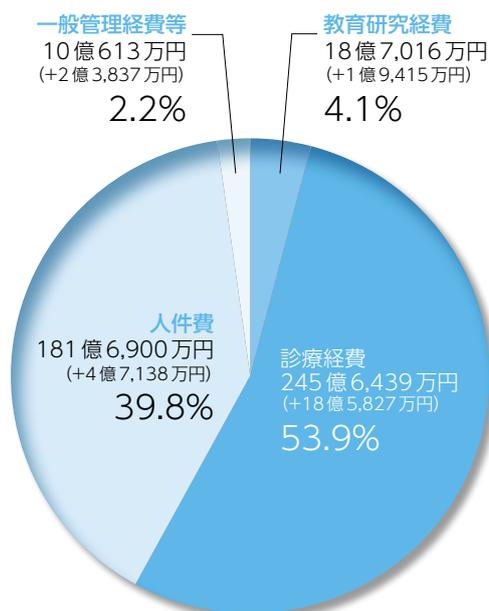
※ () 内は前年との増減額

平成29年度は、前年度と比較して医薬品費や診療材料費といった診療経費や人件費を中心に費用が大幅増となりましたが、それ以上に附属病院における収益が増加したため、昨年度の11.7億円の赤字より9.3億円の収支改善となり、赤字は2.4億円になりました。

今後、E病棟整備の償還や総合医療情報システムの更新、A病棟改修等の施設・設備整備経費の増加などにより、経営状況が厳しくなることが見込まれますので、皆さんには経費節減など経営改善に向けた取り組みへのご協力を引き続きよろしくお願い致します。



収益



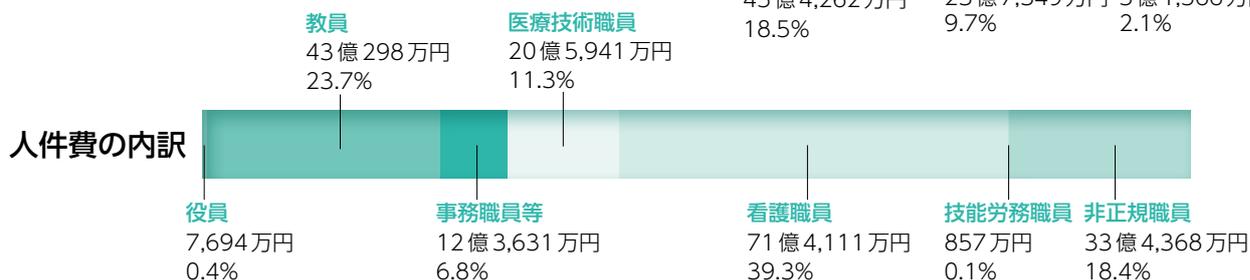
費用



教育研究経費の内訳



診療経費の内訳



人件費の内訳

平成 29 年度計画の業務実績に関する評価結果

第 2 期中期計画の 5 年目にあたる平成 29 年度計画の業務実績について、県の評価委員会による評価結果が通知されました。

29 年度計画については、前年度に引き続き「おおむね実施している」と判断され、中期目標・計画の達成に向けて、全体としては「順調に進んでいる」と評価を受けました。

30 年度は、第 2 期中期計画の最終年度にあたります。第 2 期中期目標・計画の達成に向け、引き続き皆さまのご理解と積極的なご参画をお願いいたします。

○評価結果の概要

全体評価

中期目標で掲げる 8 項目中（Ⅰ．地域貢献〈教育関連〉、Ⅰ．地域貢献〈研究関連〉、Ⅰ．地域貢献〈診療関連〉、Ⅱ．教育、Ⅲ．研究、Ⅳ．診療、Ⅴ．まちづくり、Ⅵ．法人運営）の全ての項目について、数値目標を含めて「**中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**」と評定し、年度計画で定めた事業をおおむね実施していると判断した。

平成 29 年度の業務実績については、**中期目標・中期計画の達成に向けて全体として順調に進んでいる**と認められる。

項目別評価

Ⅰ．地域貢献【教育関連】

年度評価：Ⅳ（中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる）

注目される取組（評価の高い事項）

◇県立医大医師派遣センターは、医師配置の透明性・客観性を確保するために、奈良県医師配置評価委員会での医師配置の適正性の評価を受けるなど、適正な医師配置に向けた取組みを着実に進めた。 など

Ⅰ．地域貢献【研究関連】

年度評価：Ⅳ（中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる）

注目される取組（評価の高い事項）

◇血栓止血の制御及び IVR（※）に関する研究について、諸取組を実施し、研究の推進に向けて取組を行った。 など
（※）IVR：Interventional Radiology〈血管内治療〉

Ⅰ．地域貢献【診療関連】

年度評価：Ⅳ（中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる）

注目される取組（評価の高い事項）

◇予約診療の促進に取り組んだことにより、予約実績が 12,551 件と昨年度より約 840 件増加し、紹介率 93.3%、逆紹介率 71.5%を達成した。 など

Ⅱ．教育

年度評価：Ⅳ（中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる）

注目される取組（評価の高い事項）

◇医学科教務委員会カリキュラムモニタリングWGでの意見と外部評価も踏まえ、臨床英語の充実等のカリキュラムの改定作業を実施した。 など

Ⅲ．研究

年度評価：Ⅳ（中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる）

注目される取組（評価の高い事項）

◇大学院の専攻科目に MBT 学の設置や MBT コンソーシアムとの共同事業の実施、橿原市などと共同で研究を実施するなど、地域企業等との研究を推進した。

Ⅳ．診療

年度評価：Ⅳ（中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる）

注目される取組（評価の高い事項）

◇職員のホスピタリティマインド醸成研修会の開催にあたり、前年度の受講者アンケート結果を議題に反映するなど、研修内容の充実を図った結果、理解度が向上した。

課題

◇臨床医学研究棟の仮移転先である A 棟の改修について、基本設計・実施設計を完了したが、工事着手には至らず、年度計画に掲げた取組を完了できなかった。

V. まちづくり

年度評価：Ⅳ（中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる）

注目される取組（評価の高い事項）

◇大和漢方医学薬学センターとして諸取組を実施した。加えて大学院専攻科目設置に向けて専任教員確保について情報収集を実施し、企業に役立つ成果として漢方に関する受託研究を開始した。など

VI. 法人運営

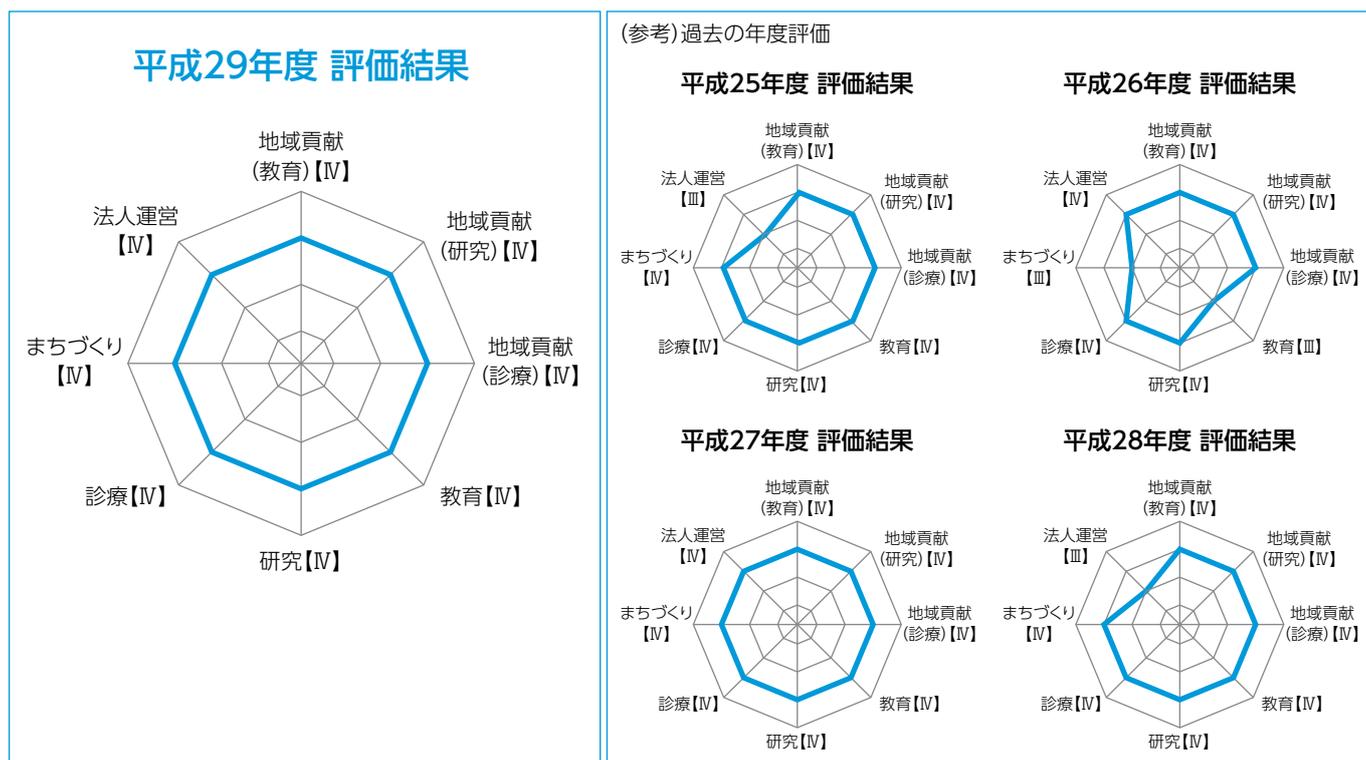
年度評価：Ⅳ（中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる）

注目される取組（評価の高い事項）

◇附属病院の適正な病床稼働率の確保、平均在院日数の適正化及び施設基準の取得・維持等により、診療収入の確保を図るとともに、医薬・診療材料費の適正化を図るため、医薬材料対策プロジェクトによる価格交渉を行い、法人化以来最高の値引率を確保するなど収益向上に努めた。など

課題

◇繰越欠損金の解消に向け、人件費における各課題等への対応については様々な取組に着手したが、業務の効率・効果的な進め方について、具体的な実行案の作成には至らなかった。



西日本医科学生総合体育大会が開催されました

～本学は総合 16 位～

合気道部・準優勝

男子バドミントン部・ベスト 4 (3 位)

今年も第 70 回西日本医科学生総合体育大会が開催されました。総合成績は 16 位でした。

競技別では、合気道部が準優勝、男子バドミントン部がベスト 4 (3 位) をはじめ優秀な成績をおさめました。

◇期 間：平成 30 年 8 月 5 日～ 8 月 20 日

◇主 管：東海・北陸ブロック

◇代表主管校：三重大学

◇参加大学数：計 44 校

◇競 技 数：21

競 技 名		成 績
硬式テニス	男	3 位
	女	2 回戦敗退
軟式テニス	男	2 回戦敗退
	女	2 回戦敗退
サッカー		2 回戦敗退
野球		1 回戦敗退
バスケットボール	男	1 回戦敗退
	女	1 回戦敗退
バレーボール	男	ベスト 4 (4 位)
	女	1 回戦敗退
バドミントン	男	ベスト 4 (3 位)
	女	2 回戦敗退
弓道	男	6 位
	女	13 位
柔道		予算リーグ敗退
卓球	男	1 回戦敗退
	女	ベスト 16
陸上	男	20 位
	女	19 位
水泳	男	8 位
	女	24 位
空手道	男	準優勝
	女	ベスト 8
合気道		準優勝
剣道	男	予選リーグ敗退
ハンドボール		5 位
ラグビー		2 回戦敗退
ゴルフ	男	20 位 / 34 校
	女	21 位 / 25 校



合気道部

医学科 4 年 市居 大季

第 70 回西医体合気道部門は、平成 30 年 8 月 11 日から 12 日まで富山県で開催されました。本大会において、合気道部は個人有段の部にて、優秀賞 (2 位)、敢闘賞 (3 位)、団体の部で優秀賞 (2 位) という成績を残すことができました。昨年、賞を取ることができなかった悔しさを糧に、部員全員が 1 年間練習に取り組んでいました。来年度は、個人の部、団体の部共に、最優秀賞を取れるように精進していく所存です。

最後になりましたが、今年このような結果を残すことができましたのも日頃の OB、OG の方々のご協力があるからこそだと思っております。日々ご支援、ご協力してくださっている OB、OG の方々、また遠方にも関わらず応援に来てくださった方々、本当にありがとうございました。これからもよろしくお祈りいたします。



バドミントン部

医学科 4 年 藤岡 周太

第 70 回西医体バドミントン部門は、平成 30 年 8 月 10 日から 8 月 13 日にかけて愛知県にて開催されました。本大会において、バドミントン部は男子団体ベスト 3 という結果を残すことができました。また、岐阜県で行われた全医体にも出場し、ベスト 4 となりました。

今年は西医体だけでなく、新人戦準優勝、春大会ベスト 4、秋大会優勝と、一年間を通していい成績を残すことが出来ました。昨年強い先輩方が卒業されたにもかかわらず、このような結果を残すことができたのは、強い先輩の穴を埋めるため、部員各々に向上心と責任感が芽生えたためだと思っております。これからも結果に慢心することなく、部員一丸となって精進していく所存です。

最後になりましたが、このような結果を残せたのも、OB・OG の先生方の日頃からのお力添えがあるからこそだったと思っております。この場をお借りして感謝申し上げます。これからも何卒、宜しくお祈り致します。

看護学科オープンキャンパス2018を開催しました

平成30年7月28日に看護学科オープンキャンパスを開催しました。台風接近に伴い、プログラムを一部（施設見学及び進学相談会）中止しての開催となったにも関わらず、450名近くの方にご参加いただきました。

はじめに、車谷医学部長が開催の挨拶を行い、引き続き、石澤看護学科長が「看護学の道を志そうと思う人へ」というテーマで看護学が始まった“原点”と、“看護のあり方”についての講演を行いました。



受付風景



医学部長挨拶

参加者からの意見

- ・看護の意味と看護師の役割をしっかりと知れたので、よかった。
- ・看護と看護学の違いを詳しく、具体例を挙げながら講演していただき、理解しやすく、興味深かった。
- ・看護とは体のケアはもちろん、心のケアもすることでとても素敵だと思った。



看護学科長講演

今年の『模擬ミニ講義』は、老年看護学の澤見教授が「人生100年時代のヘルスケア」をテーマに、ロボットによる発表も交えて講演を行いました。



模擬ミニ講義

参加者からの意見

- ・講義が分かりやすく、すごく興味深かった。入学したらこんな授業を受けたいと思った。
- ・回想論を初めて知り、過去を振り返ることは脳にとって良いことが理解できた。
- ・ロボットを使った介護方法に興味をもった。

在学生、附属病院勤務の本学卒業生参加の『先輩からのメッセージ』は、教員や事務からは聞けないような事を聞ける絶好の機会となり、毎年人気のプログラムです。

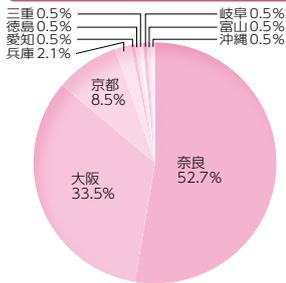


先輩からのメッセージ

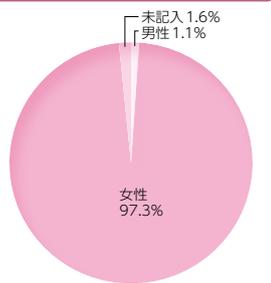
参加者からの意見

- ・1日のスケジュールや実習のことを詳しく聞けた上に、奈良医大のいいところを聞いた。
- ・実際に、先輩方の話を聞くことで、将来について具体的に考えることができた。
- ・「看護」についてイメージではなくより詳しく説明してくださったので、もっと看護に興味を持ちました。実際の声を聞くと、看護師になりたい気持ちが強まった。

参加者の都道府県別



参加者の性別



続いて、川上看護教育部長が学科紹介及び入試概要説明として、複雑な入試の仕組みなどを参加者にわかりやすく丁寧に説明しました。

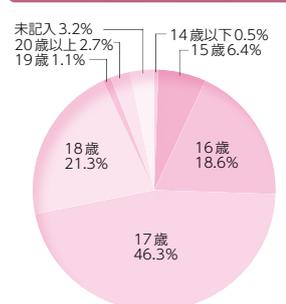


学科紹介及び入試概要説明会

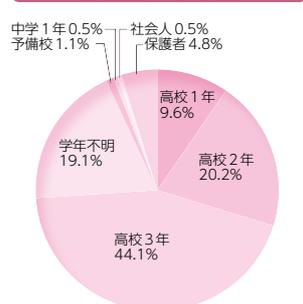
参加者からの意見

- ・看護学科の強みの説明が分かりやすく、より興味を持った。
- ・看護学科でどんなことを学ぶかがよく分かった。
- ・看護師の資格だけでなく、保健師や助産師の資格も取れることに感動した。

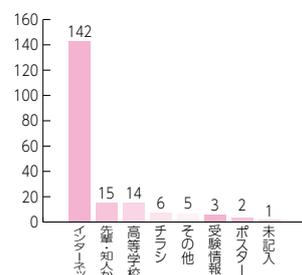
参加者の年齢別



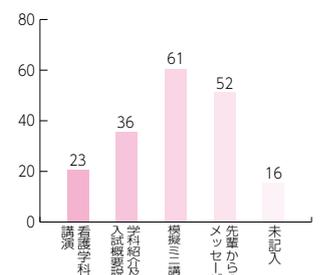
参加者の学年別



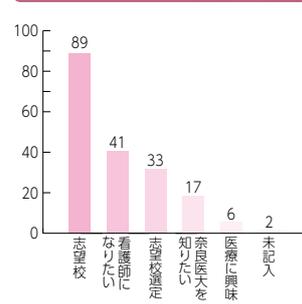
オープンキャンパスを知ったきっかけ



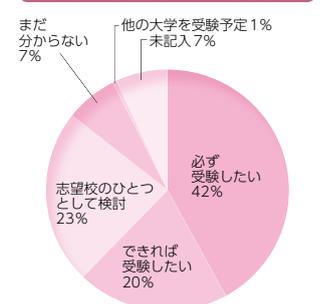
印象に残ったプログラム



オープンキャンパスに参加した動機



参加後の本学受験意識



1. MBT コンソーシアム設立 3周年記念大会

平成28年4月に設立の一般社団法人MBTコンソーシアムは、本年3周年目を迎えました。これを機に、会員のみならず広く一般の方々にも、これまでの取組や成果実績、さらには今後の展望を紹介するため、平成30年9月19日に橿原市のかしはら万葉ホールにて、「MBTコンソーシアム設立3周年記念大会」を開催しました。

当日は、会員111名、一般59名、報道関係者10名、奈良医大教職員40名、合計220名の参加を得て記念大会にふさわしい盛大な大会となりました。

本大会には経済産業省政策統括調整官の江崎禎英氏をお迎えし、「健康・医療情報の統合的な活用～超高齢社会への対応～」と題した基調講演をしていただき、「人生100年時代もささやかれる中で新たな高齢者基準作りや生活習慣病の新たな予防・進行抑制施策を取り入れ、膨らみ続ける社会保障費を抑制することが重要」との示唆をいただきました。



細井理事長の開会挨拶



講演する江崎政策統括調整官

2. MBT オープンミーティング2018 in 東京

平成30年11月27日(火)、奈良医大とMBTコンソーシアムはMBTコンソーシアム会員企業の三井住友銀行の協力を得て、三井住友銀行東京本店の大ホールで、2部構成の「MBTオープンミーティング2018in東京」を開催いたします。

第1部は「奈良医大有力技術シーズ説明会」です。今回は、麻酔科学教室川口昌彦教授、化学教室酒井宏水教授、未来基礎医学教室森英一郎特任講師、血栓止血医薬生物学共同研究講座坂田飛鳥助教が保有するシーズを紹介いたします。本シーズ説明会の案内は、MBTコンソーシアム会員のみならず、数万社の三井住友銀行の顧客企業に対しても行われるもので、マッチング機会の向上を期待しております。

第2部は「MBTコンソーシアム会議」です。以前から要望が高かった関東でのMBTコンソーシアム会員会議開催をするもので、MBTコンソーシアムの活動や将来展望を紹介し、さらなるMBTの活動に共感し参加を希望する企業を募ります。

学内の皆様には、ご都合がございましたら以下URLから大会参加申し込みをお願い申し上げます。

日 時：平成30年11月27日(火) 13:00～17:30

場 所：株式会社三井住友銀行本店3F大ホール

要申し込み：[https://pro.form-mailer.jp/](https://pro.form-mailer.jp/fms/29b5a70e137127)

fms/29b5a70e137127

3. 奈良医大発ベンチャー第1号「MBT リンク株式会社」設立

平成30年10月1日、本学第一号の大学発ベンチャーの認定を受けたMBTリンク株式会社が発足しました。同社は、MBTに基づくインターネットを利用したパッケージソフトの利用技術・研究開発及びサービスの流通等を行うこととしており、本学MBT研究所の梅田智広研究教授が代表取締役となっており、オフィスは基礎医学棟4Fに置かれています。MBTリンク株式会社は、奈良医大の医学・医療の知見を基盤とした、正しく不安のないヘルスケアサービスを提供することとしております。

4. 総務省平成30年度 「IoTサービス創出事業」に採択

凸版印刷、奈良医大、大和ハウス、兵庫県三木市等が提案した「IoT×サテライト拠点による「生涯活躍」推進事業」の課題が総務省のIoTサービス創出事業に採択されました。高齢化が急速に進む三木市「緑ヶ丘団地」において、「高血圧性疾患」への対策として、血圧に影響する情報（脈拍・BMI・活動量・温度・気圧・服薬状況等）をIoTで網羅的・継続的に取得し、ビッグデータ分析をして、サテライト拠点での保健指導や遠隔医療等に活用することを目指しています。

5. 貯筋のすすめ ～歩きと筋トレで若返り～

生活習慣病予防、運動意識改善を目的にMBTコンソーシアム第5部会による運動教室を開催しました。1つは近鉄ホールディングス(株)と共同で学園前にて1カ月間実施しました。もう一つは、北関東総合警備保障(株)と共同で、栃木県高根沢町で3カ月間実施しました。後者の活動は平成30年8月11日の日本経済新聞北関東版に大きく取り上げられました。



運動教室の様相

検索マスターへの道 (第12回) 自然語と統制語

今回は検索マスターを目指す者にとって必須の知識、自然語と統制語の話です。

文献検索するとき、まず思いついたキーワードをいくつか入力します。このときに入れるキーワード、普段意識せず使っているキーワードのことを検索では自然語と言います。この自然語のほかにもう一つ、統制語というものがあります。自然語と統制語をうまく組み合わせて使うことが検索において大事なポイントです。では、統制語とはどういったものなのでしょうか？

統制語とは、同義語・類義語をまとめ、語句間の上位・下位概念を定義し体系化した用語です。文献には、その文献の内容を表すキーワードが見出し語として付与されています。ここで付与されているキーワードが統制語です。文献では、同じような事柄でも著者によって異なる言葉を用いていることがしばしばあります。例えば、「褥瘡」なら漢字の異なる「褥創」や「床ずれ」でも意味としては同じです。そのような場合に統一されたキーワード＝統制語が付与されます。用いられる統制語は検索データベースによって異なります。医中誌なら「医学用語シソーラス」、PubMedなら「MeSH」です。統制語という言葉は知らなくても、MeSHや医学用語シソーラスなら聞いたことある方も多いのではないのでしょうか。

では、MeSHや医学用語シソーラスなどの統制語はなぜ文献に付与されているのでしょうか。それは漏れなく検索できるようにするためです。医中誌では、「褥瘡」について書かれた文献には「褥瘡性潰瘍」という統制語が付与されています。したがって、検索時に「褥瘡性潰瘍」と入れれば、文献内で表現の異なるものと一緒に検索でき、取りこぼしなく検索で拾うことができます。ただ、検索する時に自分で思いつくキーワード＝自然語が統制語と同じ言葉になるのでしょうか。たまたま同じということはありますが、基本的には自分で調べないとどのような統制語が対応しているのかわかりません。でもいちいち調べるのは面倒ですよ。そんなあなたに朗報です。医中誌やPubMedなどの文献データベースには自然語に対応する統制語を検索的に自動的に追加してくれるマッピング機能というものがあります。これにより、自然語を入れただけの検索も統制語でフォローされます。そして検索式を見返すとマッピング機能が働いているのが確認できます。医中誌を見てみましょう。「褥瘡」と入力すると「褥瘡性潰瘍」という統制語が自動的に追加され検索されています。検索式に出てくるTHは医学用語シソーラス(統制語)を表すフィールドタグです。また、ALはAll Field、検索するフィールド(タイトル、書名などの項目)を指定しないという意味で、自然語につきます。

便利なマッピング機能ですが、あくまでもマッピングされるのは同義語に登録されている言葉のみです。マッピングされていない場合は、他に適切なキーワードがある可能性があります。同義語は統制語を調べるデータベース(医中誌は「シソーラス参照」、PubMedは「MeSH Database」)から確認することができます。

統制語は文献に付与されているキーワードのことで、使うことにより漏れの少ない検索ができるということまでお話ししました。あともう一つ、統制語の理解で忘れてはならないポイントがあります。それは体系化されている

ということです。つまり、組織的にまとめられているということ、このことを知っておくと統制語をより活かした検索ができます。先ほどの例で出した統制語「褥瘡性潰瘍」が医中誌でどのように体系化されているのかを確認します。上部タブのシソーラス参照で褥瘡性潰瘍を検索し、キーワードの詳細情報下方の上位語・下位語タブを見ます。

皮膚疾患と結合組織疾患[C17+]
皮膚疾患[C17-20+]
皮膚潰瘍[C17-20-290+]
褥瘡性潰瘍[C17-20-290-30]

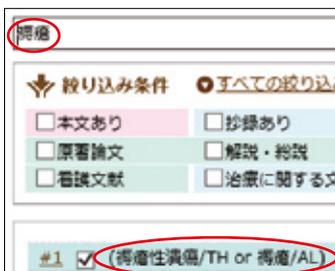
上(左)の方にあるのが上位概念、下(右)に行くほどより細かな下位概念となります。統制語「褥瘡性潰瘍」は「皮膚疾患」の下の「皮膚潰瘍」のさらに下の概念ということがわかりました。これを理解していれば、もし「褥瘡性潰瘍」という統制語で検索して検索結果が少なすぎるということがあれば、一つ上の統制語「皮膚潰瘍」を使って概念を広げるといった検索の工夫ができます。検索では下位語まで広げたくない、概念を限定して検索したいという場合はシソーラスブラウザの「下位語も検索する」というチェックを外します。

漏れの少ない検索ができ、概念の体系化によりまとめられている統制語。検索には欠かせない要素です。ただ、こんなに便利な統制語ですが、これさえあれば自然語はいらない、というわけにはいきません。自然語も検索には必要なのです。ここまで統制語のいいところをお話ししてきましたが、統制語には大きな弱点があります。それは新しいものに弱いということです。文献データは、最新情報を反映させるために発行後すぐ文献データベースに掲載されますが、その時点では統制語が付与されたデータにはなっていません。医中誌やPubMedの索引者が文献を読み、ルールに基づいて統制語を付与するという作業を経てはじめて統制語で検索できるデータとなります。統制語で検索できない、でも最新の文献は欲しい、そんなときに欠かせないのが自然語です。自然語だと、タイトルや書名など、すべての項目を検索できます。ただ、統制語と違って同義語も自分で足さないことにはほかの表現を使った文献はヒットしません。

また、統制語は古いものにも弱いです。医中誌やPubMedのデータには古いものも含まれますが、古いデータには統制語が付与されていないことや、現行のものとは異なる統制語が付与されていることがあります。統制語で検索する時は、どの範囲まで検索できているか、統制語がいつから使われているのかなどに気をつけておくことが大事です。

あと、統制語を使った検索の際にもう一つ注意する点があります。それは、データベースごとに使っている体系が異なるということです。特に医中誌ではMeSHを検索できることから、医中誌の医学用語シソーラスとPubMedのMeSHが同義のように感じるかもしれません。たしかに医学用語シソーラスに対応するMeSHがあればそのままPubMedでも使えますが、体系が異なるため同じ意味合いにはなりません。医中誌とPubMedで同じ検索をするときは、必ず統制語の体系を確認し、上位下位概念を調べておくことが自分の意図する検索に近づけるコツです。ちなみに、MeSHは毎年、医学用語シソーラスは概ね4年毎に改訂されています。

自然語と統制語のことを知っていれば、医中誌やPubMedの検索式の意味がわかるため、戦略が立てやすくなります。普段なんとなくしている文献検索も、少しの意識でぐんと不要な検索を減らし、検索漏れを少なくすることができますよ！



未来への飛躍基金だより

2017年度実績報告

日頃は「未来への飛躍」基金に対しご理解とご協力を賜り、心よりお礼申し上げます。

皆様のご協力のおかげで、平成29年度は、516件、1億2,174万円の寄附申込をいただきました。

いただいたご厚志は、学生の国内外での研修への支援や職員提案事業等に有効に活用させていただきましたので、昨年度の決算報告をさせていただきます。

今年度より、本学が目指す臨床研究中核病院に向けた取組へも基金を活用していくこととしておりますが、次世代のより良質な医療の提供を可能にするためには、一人でも多くの方のお力添えが必要です。

本基金は、ふるさと納税制度の利用により自己負担金2千円でご寄附いただけます。

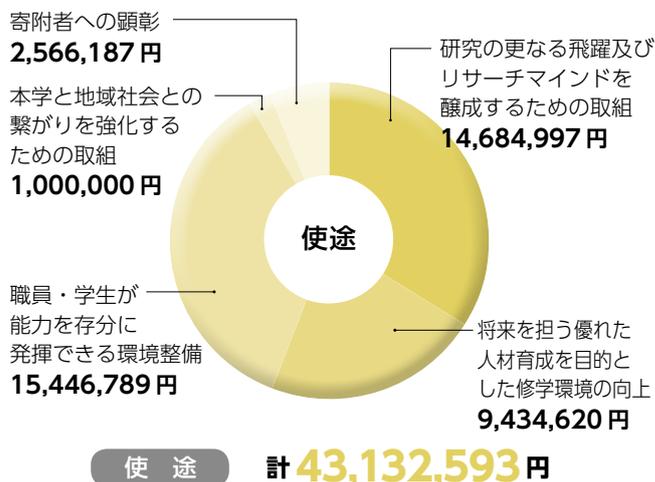
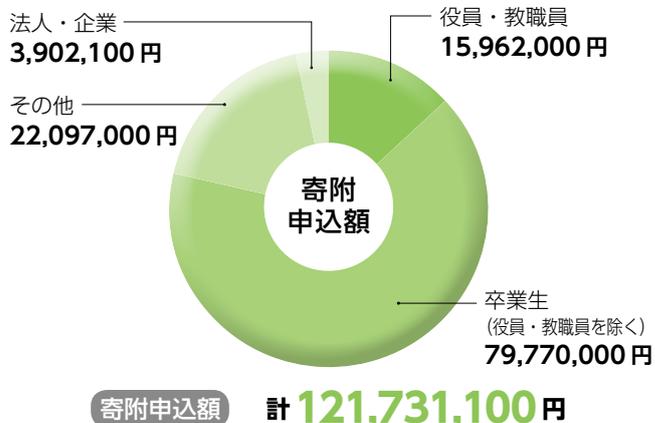
今後とも基金への変わらぬご支援とご協力をよろしくお願いたします。

お知らせ

パンフレットの改訂及び2017年度活動報告書を作成しました。お手元にはない方は、下記までご連絡ください。



◆ 2017年度寄附申込額と使途実績



※寄附申込額と使途合計額の差額は、基金に積み立てています。

◆ 使途事業内訳

使途事業	事業概要	助成人数	支出額
研究の更なる飛躍及びリサーチマインドを醸成するための取組	大学院医学研究科博士課程入学者に対する奨学金	10	5,654,100
	リサーチ・クラークシップへの助成	海外 15 国内 16	3,410,850 3,265,909
	研究室配属実習への助成	3	452,616
将来を担う優れた人材育成を目的とした修学環境の向上	未来基礎医学教室への支援	—	1,901,522
	医学科臨床実習への助成	1	48,000
	看護学科臨床研修 (国際看護論Ⅱ) への助成	4	61,000
	看護学科学生への支援	84	671,700
	ADVANCED CLINICAL ENGLISH II (海外留学) への助成	4	680,000
職員・学生が能力を存分に発揮できる環境整備	クラブ活動への助成	—	5,702,400
	新入学生への応援支援	—	2,271,520
	職員提案による職場・修学環境の充実への支援	—	15,446,789
本学と地域社会との繋がりを強化するための取組	健康長寿イベント事業への助成	—	1,000,000
	募金活動費	—	2,566,187
使途合計額			43,132,593

奈良県立医科大学総務課基金推進係

TEL : 0744-23-9973 (直通) E-mail : hiyakukikin@narmed-u.ac.jp

4/1~5/31
6/4~6/22

チェンマイ大学研究者・ 看護師の受入研修を実施しました

タイ・チェンマイ大学との学術交流協定に基づき、研究者1名と看護師2名が研修のため来日しました。

チェンマイ大学医学部リハビリテーション科の Sintip Pattanakuhar さんは、平成30年4月1日～5月31日まで麻酔科で研修を行い、看護師の Kraiwan Kaphan さん（小児科看護師長）と Saowanuch Somsri さん（救急看護科看護師）は、6月4日～6月22日まで、感染症センター、集中治療部、小児科、NICU、GCU、救命救急センターでの研修と、橿原市子ども総合支援センター等県内の看護・介護施設の見学を行いました。

滞在期間中は多くのスタッフと交流を深め、スタッフもまた、彼らとの交流を通して多くのことを学ぶことができました。受入れにあたっては、たくさんの方々のご協力をいただきました。研修に携わっていただきました皆さまに感謝申し上げます。



麻酔科にて



集中治療部にて

7.15

同志社女子大学・奈良県立医科大学学術交流に 関する包括協定に基づく講演会を開催しました

本学と同志社女子大学との共催による講演会を同志社女子大学京田辺キャンパス知徳館(ちとくかん)において開催しました。

当講演会は同志社女子大学と本学が毎年交互に開催しているもので、今回は「感染症の予防と治療」をテーマに、薬剤師の立場から同志社女子大学薬学部前田雅子学術研修員の「抗菌薬をムダに処方しない耳鼻咽喉科クリニックの取り組み」に続き、医師の立場から本学感染症センター笠原敬准教授の「日常生活に潜む感染症のリスク」と題して、それぞれご講演いただきました。

県内外から多数のご参加があり、抗菌薬や感染症について多くの質問があり、壇上の講演者との活発なやりとりが続くなど有意義な講演会となりました。



講演を行う笠原准教授



講演会の模様

7.18
~21

7月豪雨災害への医療救護班として医大チームが参加しました

日本赤十字社奈良支部の要請を受けて医師1名、薬剤師1名、看護師3名、主事1名が岡山県倉敷市真備町の被災地救護活動に参加しました。酷暑の中、被災された方々は自宅や周辺の片づけ・掃除を行いながら、慣れない避難所生活を余儀なくされており、その状況は現在も続いています。私達は、避難所の岡田小学校で近畿圏内の赤十字医療チームと交替で10時～16時、15時～20時のシフトで医療活動を行いました。救護所には、水害で常用内服を流された方、手足の負傷や皮膚炎、土埃による眼の炎症、軽い脱水症状など一日で約50名程度の被災者の方々が受診されました。救護所まで来られない方々に早期に対応するため、体育館や教室を巡回しこまめに声かけを行いながら経口補水液や医薬品を配布しました。また、家族を亡くされた方や子どもたちなど、大きなストレスを抱えている被災者に対し“こころのケアチーム”が編成され、看護師1名が赤十字チームと活動を共に支援を行いました。災害は、いつどこで起こるかわかりません。いかなる場合でも現場のニーズに対応できるよう、日常業務の質を高めチーム医療の充実に努めていきたいと考えます。

参加者名：

医師 浅井英樹（救急科）、薬剤師 岡田和也（薬剤部）、看護師 平島規子（A棟7北）、林 和代（E棟5北）、溝上大輔（高度救命救急センター）、主事 若杉裕子（医療技術センター）



7.26

第2回奈良臨床漢方医学セミナーを開催しました

丹村敏則先生（知多厚生病院副院長）による「知らなきゃ損！」シリーズ第2回目は、「糖尿病専門医が語る漢方活用術」と題し、糖尿病患者の抱える不定愁訴への漢方薬の効果的な使用法等を複数の実例を交えてご講演いただきました。標治療法（西洋医学的アプローチ、先進薬）と本治療法（漢方薬）をセットで考えることの大切さや、血糖や血圧等を平均値まで下げ、維持するためにはどのタイミングでどの漢方薬を活用するのがよいか等、セミナー参加者の方々は熱心にメモを取られていました。

漢方薬は、患者さん本人が良くなるようとする力（エンパワーメント）を助け、患者さんが良くなることで家族も一緒に良くなる（気持ちを楽にする）ものだと考えていると、この日の講演は締めくくられました。



講演を行う丹村先生



(司会) 消化器・総合外科学 庄教授



講演中の様子（厳櫃会館3F大ホール）

8.5

奈良県防災総合訓練にMBT研究所が出展しました

磯城郡田原本町で行われた奈良県防災総合訓練の啓発・展示エリアへ「大災害時の通信手段の確保」をテーマに奈良先端科学技術大学院大学並びに一般社団法人MBTコンソーシアムの会員企業と共同で出展しました。

当日は、県民の方々や、消防署員、防災会の方など多くの方がブースへお越しいただき、防災に関心を抱く方々へ通信手段の面での対応策の提示など、防災面でのMBTの参画の可能性について説明しました。



展示ブースの様子

8.6
8.7

ふれあい看護体験を実施しました

平成30年8月6日、7日に中学生以上の県民を対象に「ふれあい看護体験」が開催され看護師を希望する高校生計48名の参加がありました。主催は奈良県看護協会で奈良県立医科大学附属病院は協力施設として参加しました。

各病棟、透析部のスタッフや看護実践・キャリア支援センター連見看護師の協力で行われた体験後のアンケートでは、「実際に仕事をしている看護師と接することで、より一層看護師が素敵な仕事だと実感した。」「看護師として誇りをもって仕事をしていた。」という声が聞かれました。

8.10

血栓止血医薬生物学共同研究講座のキックオフイベントを行いました

今年の4月より開設した血栓止血医薬生物学共同研究講座のキックオフイベントを学長室で行いました。本講座は、小児科嶋教授が立ち上げに携わり、本学の重点研究課題とされる「血栓止血の制御に関する研究」を行っています。

当日は、細井理事長・学長が開会の挨拶をし、嶋教授からは講座開設にあたっての経緯が話されました。坂田助教（共同研究講座）からは、講座の目的・計画・将来展望の紹介がありました。世界をけん引する研究へ着々と動きだしています。



細井理事長・学長の挨拶

8.12
~19

チェンマイ大学で研修を行いました

平成30年度看護学科の国際看護論Ⅱ海外研修を平成30年8月12日～19日、本学の交流提携校であるタイのチェンマイ大学看護学部で実施しました。参加学生は8名で、事前にタイの文化や医療制度を学習し参加しました。チェンマイ大学での研修は、異文化における看護と医療の実際をグローバルな視点で見学し考察することを目的とし実施しました。研修は、タイの「地域医療システム」「看護教育」「伝統医療」「HIV/AIDS」の講義を受講し、各施設の見学を行い、最終日には、チェンマイ大学の教員と学生で英語によるディスカッションを通して受講生は積極的に発言し研修の学びを自分たちの言葉で伝えることができました。



修了式での記念撮影

8.20
~23

コンソーシアム実習(早大・奈良医大連携講座)を開催しました

「先端ロボティクスと医療」をテーマに、平成30年8月20日から23日まで、早稲田大学において、早稲田大学・奈良県立医科大学連携講座を開催しました。

これは、本学と早稲田大学は平成20年12月に結んだ協定に基づく連携事業として、隔年で開催校を代えて実施しているもので、早稲田大学での開催は今回で5回目となります。

早稲田大学教員と本学教員で講義を行い、本学からは、整形外科田中教授、手の外科講座面川教授が講義をしました。

講座期間中には懇親会が開催されたほか、キャンパス施設や早稲田大学先端生命医科学センター(TWIns)の見学も行われ、普段と違う雰囲気の中かで専攻を異にする学生と交流を深める良い機会となりました。

8.27
~
9.1

アート展とフォーラムを開催しました

平成30年8月27日から9月1日まで「特別支援学校と病院を結ぶ! 奈良県立医科大学附属病院アート展」を開催しました。今年度で3回目の開催となり、すっかり附属病院の行事として定着してきました。今回も多くの方々から「感動した」等の好評の声をいただきました。

さらに最終日の9月1日には初めての試みとして「医療・就労・アートをつなぐフォーラム」を開催し、荒井知事ご臨席のほか、全国各地からご参加をいただきました。特別支援学校の生徒によるダンスや本学で働く障害者(32名就労)による日常の仕事紹介、県や医大関係者によるパネルディスカッション等を通じ、障害者雇用推進の取組を全国に向けて発信しました。

奈良医大では、今後とも障害者がいきいきと働ける環境を整えることにより、患者サービスの向上や地域貢献に努めてまいります。



8.28 高大連携教育を推進しています

本学では、高校生の理科に対する興味を高めるため、高校生を対象とした大学での講義、実習の体験学習を行っています。

今回は、平成30年8月28日に昨年同様「カメの研究」をテーマにして、畝傍高校の生徒7名が参加しました。



実習終了後の集合写真

(生徒感想文一部抜粋)

実際参加してみて、医学や生物学などを学ぶ上で、生物の体の中の構造や仕組みを知ることが絶対に必要なことだということが理解できました。カメを解剖してみることで体の中の様子をよく観察することができました。とても貴重な体験ができましたし、命について深く考える機会ともなりました。本当にありがとうございました。(2年男子生徒)

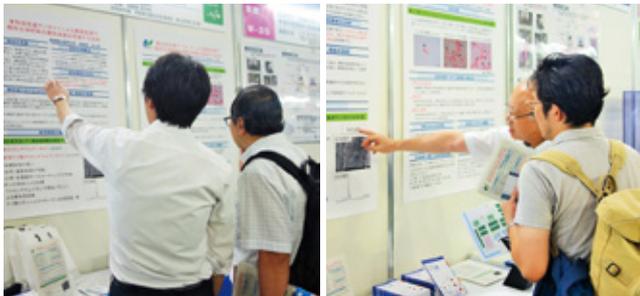
生きものを解剖するのは初めてのことだったので、とても緊張しました。萎んでいる肺は小さいのに、空気を入れると大きく膨らんで驚きました。消化管が一本の管になっていることも、実際に確認することができました。本物の臓器を見て、直に触れることができる機会は普段あまりないことなので、とても貴重な体験をすることができました。(2年女子生徒)

Campus News

8.30 8.31 **イノベーション・ジャパン 2018 ～大学見本市&ビジネスマッチング～ に出展しました**

東京ビッグサイトにて、JST（国立研究開発法人 科学技術振興機構）、NEDO（国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構）主催による「イノベーション・ジャパン 2018～大学見本市&ビジネスマッチング～」が開催されました。

本学からは、公衆衛生学講座 赤羽学准教授（研究代表者）、古川彰博士研究員（共同研究者）、田中康仁教授（共同研究者）による「骨形成促進アパタイトによる表面処理で既存生体素材の骨形成能を促進する技術」がシーズ展示に採択され、出展ブースではポスター展示のほか、来場者へのシーズ集の配付等を行いました。興味を持って足を運んで下さった方々等との名刺交換や情報交換を行い、産学連携に繋がっていく“きっかけづくり”ができました。今後もこういったイベントを活用し、産学官交流を行っていきたいと考えています。



説明の様子



出展ブースの様子

9.4 10.5 **健康長寿大規模コホート研究助成事業 進捗状況報告会を開催しました**

本学では、中期計画で取り組むこととされている奈良県健康長寿コホートスタディ（健康長寿を維持させる要因を多面的に研究する県下全域の10,000人を対象とした疫学調査）を推進し、研究成果の地域還元、地域住民の健康意識高揚などを通じた地域貢献を図るため、平成27年度から4年間の予定で健康長寿大規模コホート研究助成事業を実施しています。このたび、助成中の3研究課題について進捗状況報告会を開催しました。

「奈良県における循環器医療の質の向上と
循環器病地包括ケア構築に資する実態調査」

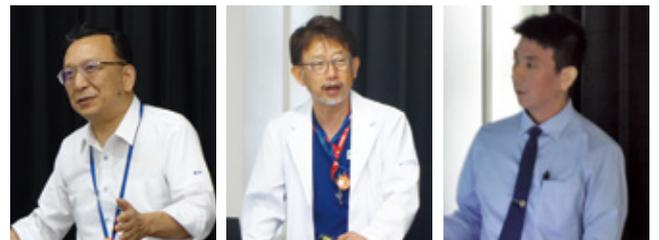
循環器内科学 教授 齋藤 能彦

「手術後機能障害の発生とその関連因子についてのコホート研究」

麻酔科学 教授 川口 昌彦

「温度・光曝露が健康に及ぼす影響に関する前向きコホート研究」

疫学・予防医学 教授 佐伯 圭吾



循環器内科学
齋藤能彦教授

麻酔科学
川口昌彦教授

疫学・予防医学
佐伯圭吾教授

9.10 9.20 9.25 **平成31年度科学研究費助成事業に係る 講演会及び応募申請説明会を開催しました**

平成31年度科学研究費助成事業に係る講演会及び応募申請説明会を開催しました。

講演会では、ロバスト・ジャパン株式会社 中安豪氏、矢野覚士氏に「最新の審査制度・様式に対応した科研費申請の対策」と題し科研費応募のテクニックに関してご講演いただきました。質疑では、応募を検討されている先生方から踏み込んだ質問がされるなど活発なやりとりがありました。

研究推進課では、今後も科研費獲得に向け、様々なサポートを行っていきたいと考えています。



ロバスト・ジャパン 中安氏

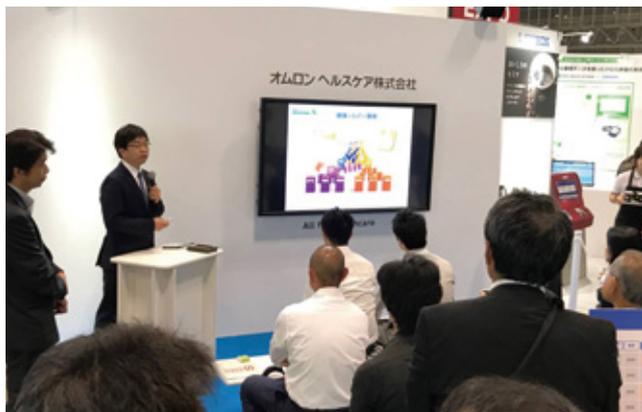
ロバスト・ジャパン 矢野氏

9.12 第1回医療IT EXPO 東京に ~14 MBT 研究所が出展しました

幕張メッセにおいて、「イノベーションで医療を身近に」をテーマにした第1回医療IT EXPO 東京が開催されました。IoT など、医療を支える製品、ソリューションなどの多彩な出展がある中、本学からオムロンヘルスケア（株）のブースをお借りしブース展示を行いました。ブースでは、MBT 研究所の梅田智広研究教授が「バイタルデータと環境データを使ったクロス評価の実現へ」と題してプレゼンテーションを行うなど MBT の研究成果を発信しました。



ブース展示の様子



梅田研究教授の講演の様子

9.13 第17回近畿・中部地区大学等 知的財産連絡会議を開催しました

本学を含む16大学と特許庁等の4機関により、第17回近畿・中部地区大学等知的財産連絡会議を厳樞会館において開催しました。

こちらは、日々産学官連携や知的財産等の業務推進を進めていく過程での問題点を論議し、この成果を日々の業務に活用していくというもので、当日は、細井理事長・学長より「医学を基礎とするまちづくり（MBT事業）」の講演の後、4つの分科会に分かれて活発な討議が行われその意見を発表していただきました。



細井理事長・学長の講演の様子



発表会の様子

9.17 奈良県立医科大学健康フェア 2018 を開催しました

平成30年9月17日に橿原のイオンモールで奈良県立医科大学健康フェア2018を開催しました。本学の教員等によりロコモティブシンドロームのチェックやアロママッサージ、ストレスチェック等の医療に関するブースを設置し、また本学学生達は「なりきりキッズドクター！」と題し、子どもを対象に救急車見学等を実施し、子どもを通じてご家族が医療に向き合える場を提供しました。当日は多くのお客様にご参加いただき、盛況のうちに終わることができました。



子どもたちで賑わう健康フェア

9.19 経済産業省江崎禎英氏にご講演いただきました

MBT 研究所では、一般社団法人 MBT コンソーシアムと共同で MBT 事業の一環として、経済産業省商務・サービスグループ政策統括調整官兼内閣官房健康・医療戦略室次長の江崎禎英氏に「健康・医療情報の統合的な活用」と題してご講演をいただきました。

かしはら万葉ホールで行われた MBT 記念シンポジウムは、細井理事長・学長による MBT の発展についての報告とあわせて大変興味深く、日本の医療・福祉についてデータを用いた様々な見方で多くのご来場者を魅了しました。今後も MBT の魅力を高めるため講演会などを行います。ご期待ください。



開会の挨拶をする細井理事長・学長



ご講演中の江崎氏

9.20 解剖慰霊祭を執り行いました

平成 30 年 9 月 20 日午後 3 時から大講堂において、第 72 回解剖慰霊祭を執り行いました。系統解剖及び病理解剖に貴重なご遺体を提供していただいた方々のご遺族や、奈良医大白菊会会員、関係機関の方々、教職員、学生等、合わせて約 400 名の方々が参列されました。

今年は新たに、系統解剖 50 柱、病理解剖 46 柱の計 96 柱の御霊を加えて、6,559 柱の御霊をお祀りさせていただきました。参列者全員の黙祷の後、学長の祭文奉読、医学科 2 年生総代の長宗輝都さんの感謝文奉読、参列者の献花と続き、最後に学長からのお礼の挨拶により終了しました。

医学の発展と医学教育のために自らの体を捧げてくださった方々の崇高なご遺志に改めて深い感謝の意を表しますとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。



御礼の言葉を述べる細井学長

9.25 実験動物慰霊祭を執り行いました

この行事は実験動物の尊い生命に対し哀悼の意を表すもので、毎年実施しています。

学長の祭文奉読後、182 名の関係職員及び学生が献花を行いました。

私たち医学に携わる者は、人間はもちろん動物の生命も尊重しなければなりません。しかし、やむをえず動物実験を行うときは、動物に対して博愛的な敬愛を払い、犠牲になる動物数の削減に努めることが必要です。

そして動物の生命から得られた貴重な情報を研究成果として、広く社会に還元できるよう努めることが私たちの責務です。



黙祷を捧げる細井学長ら

10.1

学内保育園（なかよし保育園）を増築しました

この度なかよし保育園を増築しました。昭和44年になかよし保育園の前身である託児所が竣工し、当初定員は18名でした。法人化後には建物の老朽化が進み、また職員採用を積極的に推進してきた結果、時代に応じた子育て支援のニーズが必要となり、平成24年に新園舎に建て替えし、定員を60名にいたしました。また平成26年には、待機児童が多くなり、園舎の北側にあったゲストハウスを取り壊し、園舎を増築して、定員を90名にいたしました。

この度の増築では、定員を150名とし、平成30年10月1日から供用開始し、0歳～2歳児は新園舎、3歳～5歳児は既存の本館で保育します。また、供用に先駆けて9月27日に学内関係者による新園舎の内覧会を行いました。



新園舎



内覧会の様子

10.4
10.5

第13回けいはんなビジネス メッセに出展しました

京都府けいはんなプラザにおいて第13回けいはんなビジネスメッセが開催されました。これは、けいはんな発の新しい産業の創出や地域産業の活性化を目指し、産学官の連携やビジネスマッチングを推奨する展示会で、本学も産学連携の取り組みやMBT(医学を基礎とするまちづくり)について出展しました。本学の取り組みを発信する良い機会となりました。



展示ブースの様子

学報編集委員会 からのお知らせ

寄稿記事募集案内

「学報」では、奈良県立医科大学や附属病院に関する出来事、お知らせ等を掲載いたしておりますが、これらに関連する記事を皆様からも広く募集いたします。

ご興味のある方は内線2206までお問い合わせください。

なお「学報」は年4回発行しており、本学教職員・学生のみならず本学同窓会会員や関連大学・病院等にも配布しております。



Winner Report

12.9

第30回日本内視鏡外科学会総会でePoster Awardを受賞しました

消化器・総合外科学 准教授 池田 直也

第30回日本内視鏡外科学会総会におきまして、「腹腔鏡下腓尾側切除術において自動縫合器で切離困難な厚みのある腓の切離の工夫」といった演題名でePoster Awardを受賞しました。内容は、腹腔鏡下腓切除術における腓液漏をおこさないための術式の報告です。数多くの演題が登録されているなかでこのような賞をいただくことができ、光栄に思います。この場をお借りしましてご協力いただきました先生方に感謝申し上げます。



2.3

第27回泌尿器分子・細胞研究会で研究奨励賞を受賞しました

泌尿器科学 助教 三宅 牧人

このたび、東京大学の象徴的建造物「安田大講堂」で行われた第27回泌尿器分子・細胞研究会におきまして、『研究奨励賞』を受賞いたしました。受賞演題は、「膀胱癌の浸潤様式 INF c (Tumor budding) 形成に関わる分子機構の解明と新規治療標的としての可能性」であり、多くの方のご協力があり成し遂げることができた思い出深い仕事のひとつです。本研究の遂行にあたり、ご指導、ご支援いただきました皆様方に厚く御礼申し上げます。大腸癌ですでに臨床応用されている Tumor budding (腫瘍簇出) の膀胱癌への普及を目指し、その分子機構を追求したものです。この所見は治療後の予後と強く相関すると同時に、その関連遺伝子である コラーゲン 4 および 13 が治療標的として有望であることを示しました。本受賞を励みとして、今後も歩みをとめることなく、まだ見ぬゴールに向かい邁進していく所存です。

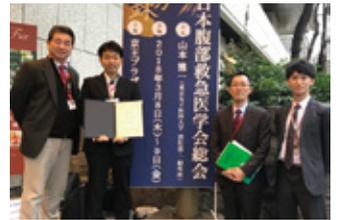
3.8
3.9

第54回日本腹部救急医学会・フィルムインタープリテーションで最優秀賞を受賞しました

放射線医学 助教 山内 哲司

平成30年3月8日～9日に東京で行われた第54回日本腹部救急医学会・フィルムインタープリテーションで、第一位・最優秀賞を受賞いたしました。これは実症例の臨床情報および画像からその診断の正確さを競うコンテストのようなもので、今回は6症例が出題されました。

受賞にあたりいつもご指導いただいている先生方に感謝申し上げます。今後も迅速かつ正しい診断で貢献できるよう、日々の診療に取り組んでいきたいと考えます。

5.31
6.3

第117回日本皮膚科学会総会で優秀演題賞を受賞しました

皮膚科学 助教 西村 友紀

平成30年5月31日から6月3日に広島で開催された第117回日本皮膚科学会総会において優秀演題賞を受賞しました。演題名は「薬剤性過敏症候群における血清 TARC 値の重症度予測マーカーとしての有用性の検討」です。当科では以前より重症薬疹の一つである薬剤性過敏症候群 (DIHS) と TARC との関係に着目してきました。本研究では急性期の血清 TARC 値が DIHS の皮膚症状をはじめとする臨床症状や臓器障害と相関することを明らかにしました。今回の受賞に際しまして、浅田秀夫教授をはじめ、御指導頂きました教室の先生方に深く感謝申し上げます。

6.2
6.3

第12回ITヘルスケア学会学術大会で研究奨励賞を受賞しました

大学院生 大井川 仁美

平成30年6月2～3日に神奈川県川崎市の川崎商工会議所 KCCI ホールで開催された第12回ITヘルスケア学会学術大会にて、研究奨励賞を受賞いたしました。大会では、医療分野やIT分野などあらゆる分野の方々との議論を深めることができ、大変多くの刺激をいただきました。受賞に際し、ご指導いただきました先生方に心より感謝するとともに、今後も研究に励んでいきます。



6.15 ～17 第23回日本緩和医療学会学術大会に おいて優秀演題賞を受賞

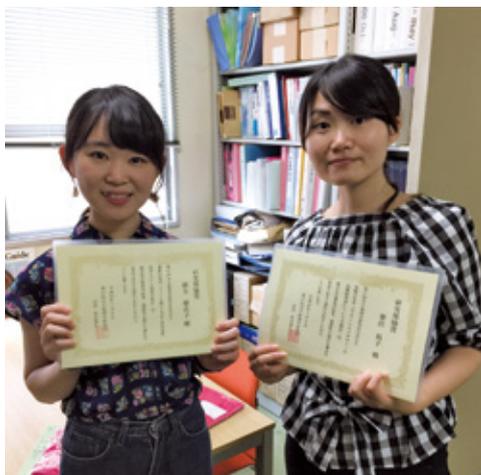
放射線医学 講師 西尾福 英之

第23回日本緩和医療学会学術大会において、優秀演題賞（タイトル：放射線治療抵抗性の有痛性骨転移に対してIVRで症状緩和と長期生存が得られている進行肝細胞癌の1例）を受賞しました。IVRは様々な領域に貢献できると期待されていますが、臨床の現場では未だ十分普及していないのが現状です。今回、このような栄誉ある賞を頂き光栄に思います。最後になりますが、日々ご指導いただいている吉川公彦教授、田中利洋准教授に厚く御礼申し上げます。

7.7 7.8 第37回分子病理学研究会で 優秀演題賞を受賞しました

医学科5年生 譽田 尚子さん
医学科4年生 緒方 瑠衣子さん

このたび、第37回分子病理学研究会において、並みいる研究者や大学院生に交じって演題を発表し、優秀演題賞を受賞しました。譽田さんの発表演題は、「Sアデノシルメチオニンの抗腫瘍効果についての検討」で、Sアデノシルメチオニンの抗腫瘍効果は抗幹細胞採用を有するが癌細胞における代謝酵素GNMTの発現により影響を受けることを示した研究です。緒方さんの発表演題は、「リノール酸による休止性幹細胞関連シグナル経路の検討」で、リノール酸によって癌細胞に誘導される休止性幹細胞がヘッジホッグ・シグナルのminor pathwayによりもたらされる可能性を示した研究です。今後も研究活動を続けてますます活躍されることを期待します。



7.10 第25回中島佐一学術研究奨励賞 の授賞式を行いました

今回の受賞者は、循環器内科学の添田恒有学内講師、未来基礎医学の森英一朗特任講師の2名で、受賞者にはそれぞれ賞状、記念品の楯及び研究奨励金を授与しました。

この賞は、故中島佐一名誉教授のご遺族からの寄附金を財源として、医学の学術研究に優れた業績をあげた本学の若手教員に対して授与し、さらなる研究の発展を奨励することを目的としています。

毎年、各所属に応募要項を案内していますので、若手教員の積極的なご応募をお待ちしています。



前列：左より添田学内講師、細井学長、森特任講師
後列：左より推薦者の齋藤教授、仲川研究教授

7.10 第7回奈良県立医科大学女性 研究者学術研究奨励賞について

当賞は、優れた研究成果を挙げた本学の女性研究者を顕彰し、将来の学術研究を担う優秀な女性研究者の育成と男女共同参画の促進等に資することを目的とし、平成23年度に創設しました。今回は眼科学講座の西智講師に決定し、7月10日、臨床第一講義室において授賞式が行われ、賞状、賞金目録及び記念品が授与されました。表彰後、西智講師より「小児の弱視眼における網膜、脈絡膜構造の検討」と題した記念講演をいただきました。



前列：左より細井学長、西講師
後列：左より車谷副学長、緒方教授

Winner Report

6.24

がん放射線療法看護の認定をいただきました

看護部 看護主査 奥野 典子

この度、がん放射線療法看護の認定をいただきました。

がん放射線療法は治療計画や併用治療の特性を理解し、治療中の再現性の向上や計画期間遵守のための看護が重要です。私は入院・通院に関わらず治療を受ける患者・家族のQOL維持のためにその思いを引き出し、自己決定支援や抱える苦痛に関するアセスメントやセルフケア能力維持ができるケアの提供、関連部署との連携が円滑なることを常日頃大切にしています。関連した相談など共に解決していけるよう、いつでもお受けしています。



6.24

手術看護の認定をいただきました

看護部 看護主査 垣内 卓也

この度、手術看護認定看護師となりました。手術看護は、心理支援に始まり、手術侵襲の軽減、医療安全、感染管理、合併症予防など多岐にわたります。そして、高度な手術が増加する現在、手術看護の質向上は医療の質向上につながると考えられます。その中で、認定看護師は看護実践だけでなく、医療チームからのコンサルテーションやチームマネジメント、指導にも力を入れ、手術看護の質向上に努めなければならぬと考えています。



6.24

皮膚・排泄ケアの認定をいただきました

看護部 看護主査 鈴木 千明

このたび、皮膚・排泄ケア認定看護師の公認をいただきました。

皮膚・排泄ケア認定看護師はWound創傷ケア、Ostomyストーマケア、Continence排泄ケアの3つの領域で活動します。この3つの分野はスキンケアで繋がっています。私が皮膚・排泄ケア認定看護師を目指したきっかけは大学院の修士課程で成人看護学教授の石澤美保子先生のもとで「化学療法における回腸導管ストーマの局所変化」についての修士論文に取り組んだ経験でした。今後はWOCの分野で実践・指導・相談の役割を十分に果たせるよう精進致します。



●認定看護師とは

認定看護師は、高度化し専門分化が進む医療の現場において、水準の高い看護を実践できると認められた看護師です。「認定看護分野」ごとに日本看護協会が認定しています。

6.29

認定看護管理者の認定をいただきました

看護部 副部長 森田 冴子

この度、日本看護協会認定試験に合格し看護管理者の認定を頂きました。看護管理研修では、病院組織の管理を飛び越えて、地域や行政を捉える視点や経営・経済等を学び、大局観を磨く機会となりました。研修受講に際し支援して下さいました皆様に感謝致します。

今後の急速な高齢化と労働人口の減少、地域完結医療へと看護も多様化が望まれます。時代を詠む柔軟な思考とAI・ロボットには出来ない「人間を愛する心」を大切に、次世代に継承していける看護を目指していきたいと思っております。



看護部 副部長 錦 三恵子

この度、日本看護協会認定看護管理者の認定をいただくこととなりました。

激変する医療の真ただ中で、患者さんの立場に立ちながらよりよい医療を提供するためには看護師の力が重要です。患者さんや家族の方々がこの病院に来てよかったと満足される、また看護職員が職務に満足し、一人一人の力が発揮でき活き活きと働き続けられる充実した職場環境を目指したいと思っております。

今後も「face to face」をモットーに活動していきます。



●認定看護管理者とは

認定看護管理者は、病院や介護老人保健施設などの管理者として必要な知識を持ち、患者・家族や地域住民に対して質の高いサービスを提供できるよう組織を改革し、発展させることができる能力を有すると認められた看護師です。認定看護管理者の資格は、日本看護協会が認定しています。

7.6 横断的共同研究助成事業及び若手研究者研究助成事業を採択しました

本学の研究の一層の推進を目指して行われている横断的共同研究助成事業・若手研究者研究助成事業について、今年度は下記の研究課題を採択しました。

本学の将来像に定めた横断的・共同研究を推進するため、今年度より横断的共同研究助成事業（旧特別共同研究助成事業）

を実施することとし、7件の応募があり、分子病理学 國安教授が研究代表者である共同研究が採択され、研究費を助成します。

また、若手研究者助成事業には19件の応募があり、下記の11名が採択し、それぞれ研究費を助成します。

横断的共同研究助成事業 採択者

所属名	職	氏名	研究課題名	共同研究者
分子病理学	教授	國安 弘基	定量型質量分析計を用いたプロテオーム解析のための共同研究プラットフォーム構築	未来基礎医学 特任講師 森英一朗、分子病理学 助教 岸真五、脳神経内科学 教授 杉江和馬、耳鼻咽喉・頭頸部外科学 教授 北原紘、RI 実験施設 准教授 菓子野元郎、人工関節・骨軟骨再生医学 講師 稲垣有佐、生体分子不均衡制御学共同研究講座 教授（共同研究講座）永森収志

若手研究者研究助成事業 採択者

所属名	職	氏名	研究課題名
生理学第一	研究 助教	杉村 岳俊	視線保持機構における脳幹神経核と前庭小脳との結合関係の解明
腎臓内科学	診療 助教	田川 美穂	急性腎障害における慢性炎症の影響に関する研究
脳神経内科学	助 教	松井 健	ヒト脳オルガノイドを用いた Mowat-Wilson 症候群の病態解明
消化器・総合外科学	診療 助教	中本 貴透	大腸内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）における腸管内洗浄液中遊離細胞の生着能に関する研究
消化器・総合外科学	診療 助教	國重 智裕	ユビキチン修飾系を標的とした新規食道癌治療法の臨床導入を目的とした研究
消化器・総合外科学	医 員	洲尾 昌伍	小児固形癌における新たな集学的治療戦略の探索
産婦人科学	助 教	河原 直紀	チェックポイント監視機構の破綻を誘導する卵巣明細胞癌治療法の確立
眼科学	学内 講師	吉川 匡宣	緑内障が生体リズムへ及ぼす影響
眼科学	医 員	山下 真理子	血液中の止血因子 von Willebrand 因子による加齢黄斑変性症の病態解析と治療効果の検討
皮膚科学	助 教	小川 浩平	免疫組織化学染色を用いた皮膚付属器腫瘍の新疾患概念・新知見の検討
放射線腫瘍医学	助 教	入江 大介	粒子線治療の線量分布が患者の日々の解剖学的な体内構造変化から受ける影響の解析

8.22

Neoplasia 誌から『Highly Cited Article 2017 award』を受賞しました

泌尿器科学 助教 三宅 牧人

このたび、ELSEVIER 社出版の Neoplasia 誌から『Highly Cited Article 2017 award』を受賞しました。受賞論文は「CXCL1-Mediated Interaction of Cancer Cells with Tumor-Associated Macrophages and Cancer-Associated Fibroblasts Promotes Tumor Progression in Human Bladder Cancer」であり、当科の中心的テーマである膀胱癌の微小環境に着目した研究です。癌細胞とその周囲にある間質細胞（マクロファージ、線維芽細胞）の間をとりもつシグナル伝達物質としてのケモカイン CXCL1 の重要性を示しました。本論文が、世界中の多くの研究者から興味をもって頂けたことは非常に名誉なことです。癌微小環境を標的とした新しい治療や診断法の開発、臨床応用に向けて貢献できるよう今後も精進していければと思います。



8.31
9.1

第43回リザーバー研究会で優秀演題賞を受賞しました

放射線医学 大学院生 松本 武士

平成30年8月31日から9月1日に群馬県の前橋テルサで開催されました「第43回リザーバー研究会」で優秀演題賞を受賞しました。受賞演題名は“Syngo iFLOWを用いたリザーバー肝動注療法の肝動脈狭窄による血流低下の定量化”です。今回の演題では Syngo iFLOW を用いることで肝動脈狭窄の早期検出や血流の定量化の可能性が示されました。今回の受賞に際しまして、御指導頂きました吉川公彦教授をはじめ、田中利洋准教授、西尾福英之先生に厚く御礼申し上げます。これを励みに、今後さらに医学の発展に貢献していきたいと思っております。



Winner Report

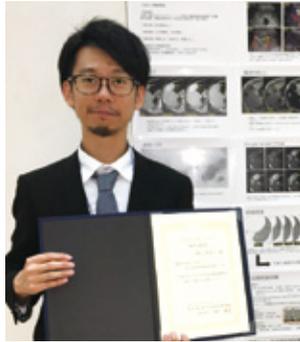
8.31 9.1 第69回日本消化器画像診断研究会 で優秀演題賞を受賞しました

放射線科 医員 南口 貴世介

この度、平成30年8月31日、9月1日に開催されました第69回日本消化器画像診断研究会においてポスターセッションで優秀演題賞を受賞させて頂きました。演題名は「肺嚢胞性病変を合併した類上皮型肝血管筋脂肪腫の1例」です。

肝血管筋脂肪腫は肝静脈に早期灌流することが知られていますが、本症例では門脈へ早期灌流しており、肝細胞癌との鑑別を要しました。また経過中に肺に嚢胞性病変が出現し、肝病変との関連が疑われた貴重な1例です。

受賞に際しまして、ご指導頂きました平井先生・丸上先生に心より感謝申し上げます。



9.6 ~8 第40回日本生物学的精神学会で若手研究者 育成プログラム奨励賞を受賞しました

精神医学 助教 山室 和彦

この度、「社会性行動の神経回路基盤の解明とその克服」を研究テーマとして、日本生物学的精神学会 若手研究者育成プログラム奨励賞を受賞しました。Cerebral cortexに掲載された「Social isolation during the critical period reduces synaptic and intrinsic excitability of a subtype of pyramidal cell in mouse prefrontal cortex」において、発達期の社会的隔離が成体においても社会的行動異常を示すこと、また前頭前野とその投射先の皮質下領域にのみ異常を来していることを報告させて頂きました。同時に、合同開催である日本神経化学学会大会の「鍋島トラベルアワード」にも採用して頂きました。これらは岸本教授を中心に諸先輩方々が臨床研究だけでなく基礎研究にも力をいれ、業績を蓄積してきたからこそであると思います。この場をお借りして深く御礼申し上げます。また、これを励みに今後も研究に精進して参りたいと思います。最後に、いつも支えてくれている妻にもこの場を借りて感謝したいと思います。



向かって一番右が山室助教

9.6 ~8 第40回日本生物学的精神医学会・第61回日本神経 化学学会大会合同年会で優秀発表賞を受賞しました

未来基礎医学教室 特任講師 森 英一朗

平成30年9月6日～8日に、神戸で開催された、第40回日本生物学的精神医学会・第61回日本神経化学学会大会合同年会で口演発表し、優秀発表賞を受賞しました。演題は、「C9orf72 遺伝子の異常な繰返し配列から産生される毒性PRポリジペプチドは中間径フィラメントと核膜孔に結合する」です。神経難病の代表疾患である筋萎縮性側索硬化症(ALS)および前頭側頭型認知症(FTD)に共通した病態を有する遺伝子異常として知られているC9orf72 遺伝子の異常な繰返し配列による病態発症について行った研究成果になります。本受賞を励みに、ALSやFTDの生物学的な機能解析を通じて、様々な神経難病の分子メカニズムを解明していきたいと思えます。



10.1 MBTリンク株式会社を奈良医大初の 大学発ベンチャーに認定しました

MBT 研究所梅田研究教授が、本学第1号となる大学発ベンチャー企業を設立しました。本学初の認定となるMBTリンク株式会社は、MBTLinkという様々なウェアラブルデバイスをつなぐ中継機器を使った健康状態を分析する健康管理サービスを行う企業です。医学系公立大学発のベンチャー企業は数少なく、注目を集めています。

大学発ベンチャー企業の認定を受けると各種支援を受けることができますので、起業をお考えの方は、まずは研究推進課までご相談ください。



認定書を手にする梅田代表取締役

リサーチ・クラークシップへの抱負

医学部医学科 2年 岸田 晏澄

私は、今年度のリサーチ・クラークシップで早稲田大学先進理工学研究科・ナノ工医学研究室に配属されることになりました。この研究室では、高分子超薄膜(ナノシート)やカチオン性・アニオン性リポソームを用いた医療応用に関する研究をしており、中でも私は、1年生の授業で学んだナノシートの医療応用に関する研究に興味を持ちました。将来医師として、医療の現場でナノシートを使用することがあったとしても、その仕組みを詳しく研究する機会は今後、ほとんど得られないと思います。今回、頂いた機会を最大限に活かし、ナノシートの体内への導入と、それが創傷治療にもたらす効果について学んでいきたいと思っています。

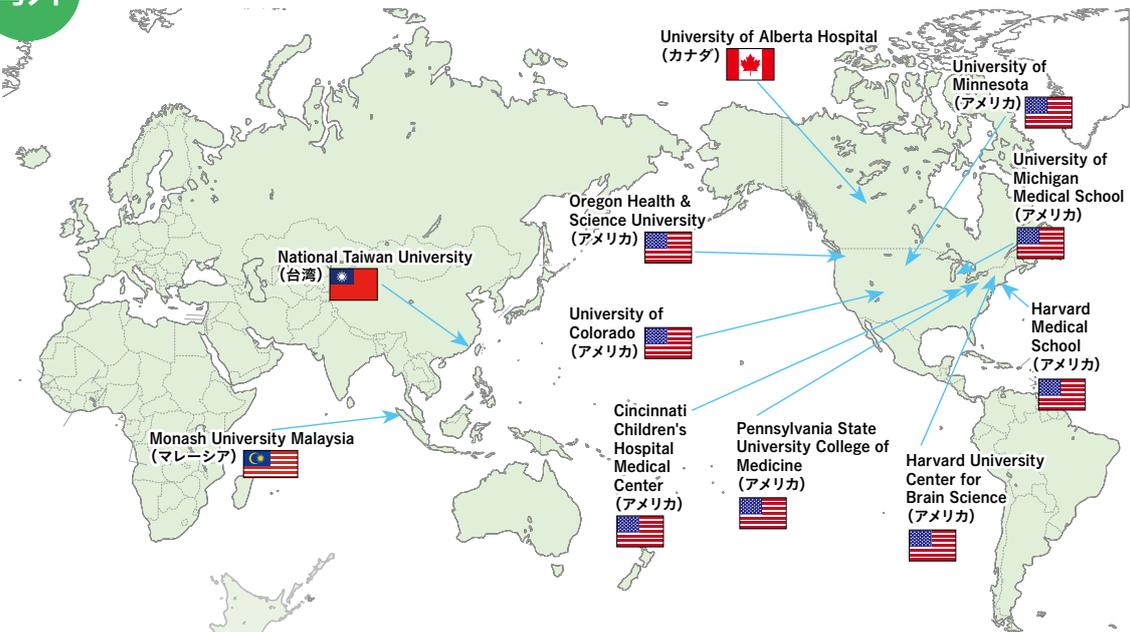
医学部医学科 2年 米田 朋矢

この度、今冬の研究室配属で海外9か国16施設に派遣される17名を代表して抱負を述べさせていただきます。私は、テキサス大学ヘルスサイエンスセンター・サンアントニオに行かせて頂くことになりました。高校生の頃から将来、医学の基礎研究に携わりたいという希望があり、1年生の秋頃から本学の研究室に通っております。今後の大学生活や研究活動に活かせるよう、この度のリサーチ・クラークシップでは、世界各国から人々が集まる研究施設での出会いや、日本とは違った文化を持つ異国の地での生活を通じ、見地を広げると共に、米国での研究文化や研究への姿勢を学びたいと存じております。

●リサーチ・クラークシップとは

医学科2年生の授業科目の一種で、本学の研究室または、国内外の研究施設に約2ヶ月在籍し、高度な実験科学の進め方を実際に体験します。研究活動の意義およびそれを支える研究者の心を理解して research mind を培います。

海外 15名の2年次学生派遣(2017年度実績)



国内 22名の2年次学生派遣(2017年度実績)

- 岩手医科大学薬学部
- 理化学研究所脳科学総合研究センター
- 国立感染症研究所免疫部
- 早稲田大学先進理工学部
- 金沢大学医薬保健学総合研究科
- 同志社女子大学薬学部
- 京都大学大学院医学研究科・医学部
- 国立循環器病研究センター
- 奈良先端科学技術大学院大学
- 奈良女子大学大学院人間文化研究科
- 熊本大学発生医学研究所

一般財団法人 弘済会 奈良医大病院内

弘済会は、奈良県立医大 及び 医大病院内の福利厚生施設の管理を行っています。



S & S
staff&student



施設サービス：ローソン・ドトールコーヒー・レストランロイヤル・レストランロイヤルS & S (職員・学生食堂)・アックス (理・美容室/医療用ウィッグ等販売)・コピー機・自販機 等

場 所：C病棟 2階
電 話 番 号：0744-23-1779 (直通)
(医大内線：5231)

7月18日 ビューティサロンANCS OPEN !!



外観

美容室

理容室

新しく理・美容室がオープンしました !!

医療用ウィッグ専門店だから専門スタッフによるウィッグの無料試着・販売・アフターケアやメンテナンスもできます !!

☆さらに☆ 医療用ウィッグは **定価の 20% OFF !**

場 所：C病棟 2階
電話番号：0744-21-1123 (内線 5234)

The donation person name

寄附者ご芳名

「未来への飛躍基金」にご協力いただきありがとうございました

基金創設以来、平成30年9月までに累計1,935件のご寄附をいただいております。
なお、今号では、平成30年7月～9月にお申し込みいただいた方のご芳名を掲載させていただきます。

平成30年6月以前にご寄附いただいた方のご芳名については、本学「未来への飛躍基金」HP (<http://www.naramed-u.ac.jp/~hiyakukikin/>)に掲載しております。

【個人】

◆100万円以上

車谷 典男 様 橋本 浩 様

◆30万円以上100万円未満

青山 恒一 様 浅田 秀夫 様 今村 知明 様
岩野 正之 様 岡山 悟志 様 嶋 緑倫 様
庄 雅之 様 田中 康仁 様 寺田 秀興 様
西 憲幸 様 新田 望 様 原田 稔 様
室 繁郎 様 渡邊 愛子 様 渡邊 巖 様
掲載を希望されないご寄附者様 1名

◆10万円以上30万円未満

浅川 勇雄 様 上山 健一 様 江里口雅裕 様
大林 千穂 様 奥井 桂三 様 笠原 正登 様
金森 正明 様 久下 博之 様 桑原 弘純 様
酒井 宏水 様 高木 忠隆 様 中川 一郎 様
松本 雅充 様 峯 克彰 様 宮内 義純 様
掲載を希望されないご寄附者様 6名

◆10万円未満

石川 智朗 様	石原 里美 様	鴨門 大輔 様
川上 利香 様	経堂 篤史 様	阪本 吉偉 様
添田 恒有 様	田中由紀子 様	中田 康紀 様
中野 知哉 様	西田 卓 様	野木 真紀 様
橋本 行弘 様	船戸 正久 様	山口 智由 様
米澤 清人 様		

掲載を希望されないご寄附者様 9名

◆金額の公表を希望されないご寄附者様

岡田 定規 様	瓦谷 英人 様	高濱 潤子 様
高濱 誠 様	長田 憲和 様	中林 仁美 様
西 真弓 様	林 洋 様	東谷 秀樹 様
平井都始子 様	廣橋 里奈 様	古家 仁 様
松本 恒和 様	美登路 昭 様	村上 真也 様
村上 義樹 様		

【法人・企業】

◆100万円以上

一般財団法人 弘済会 様

(五十音順)

公開講座情報

奈良前立腺がん 市民公開講座

開催日：平成30年11月25日(日) 14:00～16:00
場所：奈良県文化会館 小ホール
概要：奈良県で受けられる前立腺がんの最先端の治療を紹介！
講演者：泌尿器科学 藤本清秀 教授 他
対象：県民
定員：250名
備考：事前申込み不要 参加無料
問合せ先：武田薬品工業(株) 市民公開講座事務局
 FAX 0742-34-7766

ウイルス肝炎研究財団 市民公開講座2018

開催日：平成31年2月3日(日) 14:00～16:00
場所：橿原文化会館 小ホール
概要：名医に聞く肝臓のお話
講演者：総合司会：内科学第三講座 吉治仁志 教授
対象：県民・医療従事者
備考：事前申込み不要 参加無料
問合せ先：内科学第三講座
 TEL 0744-22-3051
 E-mail 3naika@naramed-u.ac.jp

平成31年度入試日程【医学部】

学科	入試区分	募集定員	出願期間	試験日	合格発表(予定)
医学科	推薦*1	38	平成30年12月11日(火) ～12月14日(金)	平成31年2月2日(土) 2月3日(日)	平成31年2月13日(水)
	前期	22	平成31年1月28日(月) ～2月6日(水)	平成31年2月25日(月) 2月26日(火)	平成31年3月5日(火)
	後期	53		平成31年3月12日(火) 3月13日(水)	平成31年3月20日(水)
看護学科	推薦*2	35	平成30年11月1日(木) ・11月2日(金)	平成30年11月25日(日)	平成30年12月11日(火)
	社会人	5			
	前期*3	45	平成31年1月28日(月) ～2月6日(水)	平成31年2月25日(月) 2月26日(火)	平成31年3月5日(火)
	後期*4		実施しません		

*1 医学科推薦選抜試験は緊急医師確保特別入学試験13名と地域枠入学試験25名を実施します。

*2 看護学科推薦選抜試験は地域枠のみ募集します。

*3 看護学科一般選抜試験(前期日程)は、一般枠35名と地域枠10名を募集します。

*4 看護学科一般選抜試験(後期日程)は、実施しません。

詳しくはホームページで確認してください (<http://www.naramed-u.ac.jp/university/nyushijoho/index.html>)

看護学科の推薦・社会人入試募集要項は9月中旬から配布中です。医学科推薦入試募集要項は11月上旬、その他の募集要項は11月下旬から配布予定です。

Media Listing Information

メディア掲載情報をお寄せください～学報紙面で紹介します～

新聞・雑誌・テレビ等マスコミの取材、テレビ出演、記事を掲載された教職員・学生をこの「学報」紙面で紹介します。

日付	媒体	対象者	掲載概要
6月5日	読売新聞	眼科 学内講師 吉川 匡宣	白内障手術が認知症リスクを減らす事についてコメント
6月21日	週刊文春	疫学・予防医学 准教授 大林 賢史	特集「照明上手な家」で研究内容紹介
7月21日	朝日新聞	糖尿病学 教授 石井 均	糖尿病についてコメント
7月23日	日本経済新聞	未来基礎医学 特任講師 森 英一朗 脳神経内科 助教 松井 健	ES細胞から大脳組織培養の研究成果について
7月29日	BS朝日	糖尿病学 教授 石井 均	糖尿病教室等について放映
8月2日	奈良新聞	—	奈良中央信用金庫からの寄附(附属病院アート展)の贈呈式が掲載された
8月2日	奈良新聞	糖尿病学 教授 石井 均	糖尿病の治療と予防についてコメント
8月2日	毎日新聞	—	アート展開催に向け支援学校生による古家院長の表敬訪問が掲載された
8月15日	日本経済新聞	—	高齢者等の見守りシステムの開発について (MBT)
8月30日	日本経済新聞	公衆衛生学 教授 今村 知明	フグの調理資格に関してコメント
8月31日	日本経済新聞	糖尿病学 教授 石井 均	糖尿病についての基調講演が掲載された
9月2日	奈良新聞	—	医療・就労・アートをつなぐフォーラムの開催について掲載された
9月23日	読売新聞	消化器・総合外科学 教授 庄 雅之	胃がんについてコメント
9月28日	日本経済新聞	公衆衛生学 教授 今村 知明	遺伝子組換え食品の表示に関してコメント
10月2日	毎日新聞	MBT研究所 研究教授 梅田 智広	MBTリンク(株)の設立について

2018年

編集後記

皆様からのご協力をいただき第66号学報を発行する事ができました。ご協力・ご支援頂いた皆様に深く感謝いたします。

「学報」では、職員の皆さんからの記事を随時募集しております。是非広報室までご連絡ください。

